

Title	並木和夫先生
Sub Title	
Author	山本, 爲三郎(Yamamoto, Tamesaburo)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2012
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.85, No.5 (2012. 5) ,p.71- 72
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特別記事 : 並木和夫先生追悼記事
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20120528-0071

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

並木和夫先生

はじめてお目にかかったときには、並木さんは博士課程の学生だった。それから三十年、いつも並木さんには穏やかな優しい笑顔で接していただいた。私は言いたいことをずけずけと口にするタイプなので、礼儀を知らない後輩だと不愉快に思われたことも多かったに違いないのだが、怒ったお顔どころか不機嫌そうなお顔も見受けしたことがない。

高鳥先生や倉澤先生、米津先生もご存命の頃には、遠慮なされていた面もあるかもしれないが、議論ではご自身の主張を明確に論じて先生方の前で気おくれされるご様子はなかった。商法研究会において倉澤先生をお相手に一歩も引かず、「そうですか」と言われつつも、言葉を替えながら自説を何度も説明されたこともあった。先生方と議論する並木さんは楽しそうに見えた。

並木さんは、塾の先生方がどのように説明されたかをよく口にされていた。先輩の考えを咀嚼し、進展させる

というのが基本的な研究スタイルのように思えた。三田における学問の伝承を感じる。もともと、三田商法学を意識するというよりも、並木さんにとっては、先輩の考え方を理解しそしてそれに挑戦するという営み自体がとても楽しかったのではなからうか。不器用だけれども、という失礼ではあるが、純粹に研究を楽しんでおられたように思う。

目新しいものを好まれていた。パソコンはいち早く取り入れられていたし、IP電話を初めて見たのは並木さんの研究室であった。「これを知っていますか」と嬉しそうに説明されるのである。そういえば、カード型の印章もそうであった。胸ポケットのカードケースから取り出したカードを書類の上に置くと印影が押されているのである。私が驚いていると、「これは便利ですよ」と嬉しそうにその機能を説明された。少し自慢げであるけれども、控えめで押しつけらしさは全くない。研究室に置かれていた籐の椅子のように品がよいのである。

足の具合はお見かけすると分かるが、長い長い間に徐々にであったので、心配しながらもご体調を話題にすることができなかったし、ご本人も話題にすることはなかった。それにしても早すぎるお別れであった。お辛

かっただろうと思う。しかし、並木さん流のダンディズムだったのだろうか、愚痴めいたことは話されなかった。心からご冥福をお祈りいたします。

法学部教授 山本 爲三郎

つれづれの思い出

同僚の死というのは、やはりこたえるものである。並木さんの訃報に接したのは、二〇一一年の年明けだったが、亡くなられたのは二〇一〇年末だった。その前年の二〇〇九年一〇月には、文学部教授で私と同じ分野（都市・地域社会学）の藤田弘夫教授も亡くなられた。法律学科の並木さんとは、法学部への就職は私が一年後だったが、年齢は一緒の一九五三年生まれであった。就職や年齢が近いと、学務の仕事や役職で一緒したり、留学の時期が近かったりと何かと交流が多いものである。亡くなられると、自然と法学部に就職したころのことを思い出す。高島正夫先生や伊東乾先生、石川忠雄先生や十時巖周先生が学部の中核にいらっしやったころである。

並木さんは、長身でスマート、恰好が良い男性であったが、学生時代に「脳腫瘍」を患ったことがあるとお聞きして、人知れずご苦労があったのだなと思つたものである。性格は几帳面でまじめ、ある面では融通が利かな